

中学校第 1 学年 外国語科 学習指導案

期 日 平成 2 7 年 1 1 月 5 日 (木) 第 5 校時
場 所 上天草市立大矢野中学校 1 年 4 組教室
指導者 教諭 岡崎 卓
A L T Jemma Gallagher

1 単元名

「Unit7 サンフランシスコの学校」NEW HORIZON 1 (東京書籍)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、主人公さくらの友人であるベッキーの祖母、ナンシーがアメリカの中学校を紹介するビデオを作成し、それらのいろいろな場面を通して、アメリカの中学校生活や、授業の様子などの異文化理解をする内容である。それらをふまえ **Writing Plus** では自分たちの学校を世界へ発信する力をつける内容になっている。この単元では、自分が分からないことを疑問詞を用いて的確に尋ねたり、答えたりする力を身に付けさせることをねらいとしている。

また、学習指導要領の改訂における主な改善事項の一つである「言語活動の充実」を図る視点からは、言語材料の疑問詞、**who**, **what** 及び **which** などを使って、自分の知らない人物について尋ねたり、何時に～するのか尋ねたり、選択することを求めたり、それらについての的確に述べたりする言語活動に適した内容である。

ここでの「言語材料の使用場面」は、「b 生徒の身近な暮らしに関わる場面」に当たり、「言語の働き」としては、「c 情報を伝える」の中の「説明する」「描写する」や「e 相手の行動を促す」の中の「質問する」などの言語活動に当たる。

新出の言語材料は、疑問詞 **who**, **what time**, **what**+名詞, **which** である。それに加え、既習表現を生かしながら、相手に質問したり、それに答えたりする活動を通して実践的なコミュニケーション能力を育むことができる。

(2) 系統観

Hi Friends 1	第 1 学年	第 3 学年
Lesson 1 How many…?	Unit 4 【疑問詞 what 】 What is …?	Unit 4 【疑問詞+不定詞, 間接疑問文】 how to ~
Lesson 5 What would you like?	What's your favorite…?	Do you know +wh 節
Lesson 6 What do you want?	Unit5 【疑問詞 How 】 How many … ?	Unit 6 【関係代名詞】 Who, which, that
Lesson 7 What's this?	Unit7 【疑問詞 who , what time , What +名詞, which 】 Who …? What time …?	
Hi Friends 2	What +名詞, …Which…, A or B?	
Lesson 2 When is your birthday?	Unit8 【疑問詞 where , whose 】 Where … ? Whose … ?	
Lesson 6 What time do you get up?	Unit9 【疑問詞 When 】 When … ?	
Lesson 8 What do you want to be?		

I Can Do It の関連

Program	2	be 動詞 2 (疑問文・否定文)	P 4
Program	5	一般動詞 (疑問文・否定文①)	P 7
Program	7	一般動詞 (疑問文・否定文②)	P 9
Program	13	現在進行形	P 1 3
Program	16	一般動詞の過去形 (疑問文・否定文)	P 2 0

(3) 生徒観

- 本学級の学習に対する姿勢は概ね良好であるが、積極的に発言や挙手をする生徒は限られているので、すべての生徒が活発に発表できるような手立てが必要である。また、英語の学力に関しては個人差がかなり大きく、ペア学習やグループ学習で学び合う機会を確保したり、ヒントカードなどを活用したりするなど、学習形態の工夫が必要である。

【Readiness test (31 名実施) の結果より】

- 1 日本文にあう英文になるように () 内の語を並べかえましょう。
- (1) あなたはアメリカ出身ですか。(from / you / are / America)? 正解者数(20/31)
誤答(You are from America)?
- (2) あれは寿司屋ですか。(bar / that / is / sushi / a)? 正解者数(18/31)
誤答(That is a sushi bar, Is sushi a that bar)?
- (3) あなたは毎日野球をしますか。(baseball / you / do / play / every day)? 正解者数(25/31)
誤答(Every day do you play baseball)?
- (4) これは何ですか。(this / is / what)? 正解者数(15/31)
誤答(Is this what? / What this is?)
- (5) あなたは朝食に何を食べますか。(do / for / have / you / usually / breakfast / what)? 正解者数(14/31)
誤答(What do you have usually for breakfast ?)
- 2 適する語を選び○で囲みなさい。
- (6) Ken (live , lives) in Kikuchi. 正解者数(27/31)
- (7) Sho and Suguru (come , comes) to school by car. 正解者数(8/31)
- (8) Do Mami and Becky speak English very well? 正解者数(9/31)
Yes, (I, she, they) do.
- (9) 英語学習で、あなたが苦手な活動は、次のうちどれですか。あてはまるものに○をつけなさい。
聞くこと 3人 話すこと 7人 読むこと 6人 書くこと 15人
- (10) 英文を書くときに、あなたが気を付けていることを教えて下さい。
・ピリオド、コンマをつける。(15人) ・文の最後にピリオドをつける。(12人) ・相手に伝わるようにいろいろなことを表現する。(6人) ・英文を書くときルール(4人) ・似ているアルファベットに気を付けながら話す。・大文字と小文字。・2文以上で書く。・単語をまちがっていないか確認する。・意味のないことは書かない。・順番をまちがえない。・相手が分かるように。・自分の好きな物やことを必ず2文以上にする。・自分のことが相手にちゃんと伝わる文になっているのか。・具体的に説明する。
- (11) 大矢野中学校のことを英語で説明するとき、あなたは何を紹介したいですか。
・部活動(16人) ・大矢野中のすごいところ、よいところ(15人) ・クラス数(5人) ・行事(7人)
・校門一礼(5人) ・大矢野中学校が建っている場所(4人) ・校歌(4人) ・今年のテーマ(4人)
・大矢野城があった場所だということ(2人) ・文化祭(1人) ・あいさつの声

- be 動詞の疑問文の定着が低い。その中でも疑問詞を用いた疑問文は be 動詞、一般動詞共に正答率が低い結果であった。特に、疑問詞 what を用いた be 動詞の疑問文では、疑問詞を一番後ろに持ってきたり、be 動詞と主語を入れ替えず解答したりするなどの誤答の他、be 動詞の疑問文と一般動詞の疑問文の混用が見られるので、再度疑問文の作り方と答え方について整理することが求められる。
- 三人称単数現在形の用法については、主語によって動詞変化することに慣れていない。特に、複数主語の場合の誤答がほとんど見られ、正答率がかなり低い。
- 苦手な活動では書くことが一番多く、次に話すことであった。特にアウトプット活動に苦手意識が見られるので、スモールステップや学習形態に工夫を行い、表現活動を行う必要がある。
- 英文を書くときに気を付けていることは、文法のルールと答える生徒が圧倒的に多かった。しかし中には、「相手に伝わりやすいように」「具体的に説明する。」など相手を意識しながら英文を書こうとしている生徒もいることが分かった。ただ、少数であるので、相手を意識したまとまりのある文章を書くための視点を提示したい。
- 大矢野中学校のことを英語で説明するとき何を紹介するかの問いに対し、部活動や、クラス数、行事など具体的に答える生徒がいた。しかし、その反面「すごいところ」や「よいところ」など、抽象的な言葉で答えた生徒も多かったため、アイディアマップを書かせ、具体的なイメージを持たせて、表現できるようにしたい。

(4) 指導観

- 単元においては、疑問詞 **who**, **what time**, **what**＋名詞, **which** が初出である。それらの基礎・基本を定着させるために、既習事項を盛り込んだ自己表現やペアワークなどを行う。
- I Can Do It** を **warm up** 部分の帯活動で使用したり、文法のまとめや基礎の定着の場面で使用したり、キーセンテンスをディクテーションしたりして、生徒の理解の補助として活用する。
- ウォームアップの帯活動として既習事項を生かした **Who am I?** ゲームを行い、本時の学習がスムーズに理解できるようにする。
- 書く力を定着させるために質問されたことに対し、自分の立場 2 文以上で答えることを継続的に行う。

【視点 1】学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点 2】学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点 3】学びを支える 一人学びのUD化と 効果的な I C T の活用
【視点 1】 ・表現活動において、英語を通した生徒同士のインタラクションの場面を展開することを通して、よりコミュニケーション的な授業を展開する。	【視点 2】 ・グループ活動後、クラスメイトからもらったアイディアをもとに、自分の表現を再構築して発表する。	【視点 3】 ・既習事項を効果的に活用し、全体に共有したい表現を見つけた場合は、表現活動を促進するために ICT【実物投影機】を効果的に活用する。

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

- ・学習活動の流れをあらかじめ板書しておくことで、学習に対する見通しをもたせ、活動がよりスムーズにかつ、目標をクリアできるようにする。

【合理的配慮】

(省略)

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	○ Who, What time, What ＋名詞, Which などの疑問詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。 ○自分の学校について、必要な情報を整理して紹介する英文を書くことができる。 ○アメリカの中学生の学校生活について理解することができる。 ○ Who, What time, What ＋名詞, Which などの疑問詞を用いてたずねたり、答えたりすることができる。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	① さまざまな疑問詞を用いて相手のことについて積極的に尋ねたりしようとしている。
外国語表現の能力	① さまざまな疑問詞を用いて相手と応答している。 ② 自分の学校について紹介する英文をわかりやすく書いている。
外国語理解の能力	① アメリカの中学生の学校生活について理解している。
言語や文化についての知識・理解	① さまざまな疑問詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。

4 指導・評価の計画（11時間取扱い 本時10／11）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【3つの視点から】	評価の観点（評価方法） B基準
1	1	○Whoの意味や用法を理解し、練習問題に取り組む。	・Whoの用法を押さえ、表現活動につなげる。 視点1 ・口頭練習を十分行う。	知識・理解① Whoの意味や用法を理解している。 ＜ワークシート、観察＞
	2	○教科書を読み本文の内容を読み取る。	・本文の内容を理解させるだけでなく、Q&Aを行い、英語でも答えさせる。 視点1	外国語理解の能力① 自分が知らない人について who を用いて尋ねたり、また尋ねられた場合は答えることができる。 ＜ノート＞
2	3	○What time～?の用法を理解し、応答の練習を行い問題に取り組む。	・Hi Friendsで行っている内容を活用し時間をかけず口頭練習を行いインタビューする。 視点1	外国語表現の能力① What time～?の意味や用法を理解し、正確に応答することができる。 ＜ワークシート＞
	4	○教科書を読みいろんな国の時刻、季節を読み取ると共に時差について理解する。	・What time～?を活用し、相手にインタビューを行わせる。 視点3	外国語表現の能力① 場面に応じて既習事項を活用し、What time do you～?を用いて相手の日常生活について応答することができる。＜ワークシート＞
3	5	○What＋名詞の用法を理解し、練習問題に取り組む。	・What＋名詞の語順に注目させ、文構造をおさえる。 視点1	知識・理解① What＋名詞の用法を理解し、正確に応答している。＜ノート＞
	6	○対話文を読み、アメリカの学校生活について読み取る。	・日本の学校と比較し、アメリカの学校の違いをおさえさせる。 視点2	外国語理解の能力① アメリカの学校についての対話文を読んで学校生活について理解することができる。＜ワークシート＞
4	7	○インタビュー活動を通して、二択の質問を行い応答する練習をする。	・自分が興味ある事二つを比較し、相手に尋ねさせる。 視点3	関心・意欲・態度① Which is A or B?で二択の質問をALTに行い、応答しようとする ＜観察＞
	8	○対話文を読み、アメリカの学校生活（昼食や放課後）について理解する。	・日本の学校と比較し、アメリカの学校の違いを読み取らせる。 視点1	外国語理解の能力① 対話文を読み、アメリカでの学校生活について読み取ることができる。＜ワークシート＞
5	9	○教科書本文を読み、自分の学校の紹介の仕方を学ぶ。	・紹介文の書き方のポイントを提示し、書き方を理解させる。 視点2	知識・理解① まとまった英文の書き方を学び、自分の学校の紹介についての表現方法について理解することができる。＜ワークシート＞
	10 (本時)	○必要な情報を整理し、自分の地域などの紹介文を書く。	・読み手を意識したまとまりのある文章を書くためにはどうしたらいいか考えさせ、ペアと一緒に改善させる。 視点2・視点3	外国語表現の能力② 読み手が分かりやすいように情報を整理し、自分の地域などの紹介文を書くことができる。 ＜ワークシート＞＜観察＞
6	11	○空港や機内の対話を聞き取る。	・日本の学校と比較し、アメリカの学校の違いを読み取らせる。 視点1	関心・意欲・態度① 対話文を聞いて要点や重要な情報を聞き取るようとしている。 ＜ワークシート＞

5 本時の学習

(1) 目標

- ・観光に訪れる外国人が、わかりやすいように情報を整理し、自分の地域の紹介文を書くことができる。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 10分	1 ウォームアップをする。【ペア】 (1) Greeting weather, day, date, (2) I CAN DO IT 基本文練習をペアで行う。 2 既習事項の復習をする。 Dictation, Answer+one Training. 3 本時の課題を確認する。	○T2のALTと協力して元気に活動できる雰囲気を作る。 ○時間をかけず、テンポよく行う。 ○これまで学んで生きた文法事項を生かして書くトレーニングを行う。 徹底指導 (ポイント) ・既習事項を活用し、表現の練習を徹底的に行う。 ○トレーニングで行った内容を本時の課題につなげる。 【視点1】意見交換のポイントを確認し、お互いの紹介文を改善させる。	I Can Do It デジタル教科書プロジェクト
展開 25分	学習課題 観光に訪れる外国人に郷土のことを英語でわかりやすく書こう！ 4 パートナーとお互いに作成した地域の紹介文を交換し、意見交換を行った後、改善する。 【ペア→グループ】 【言語活動】 (設定の意図) 紹介文について見直しのポイントを基に協議を行い、表現やまとまりのある英文にするためにはどうしたらいいか主体的にアドバイスを送るため。	能動型学習 (ポイント) ・読み手を意識したまとまりのある文章を作成するためには、どうしたらいいか思考する。 評価：外国語の表現（ワークシート・観察） B基準 読み手が分かりやすいように情報を整理し、文章の構成を考え、地域の紹介文を書くことができる。 A基準 B基準に加え、既習表現（結束性を高めるための代名詞や接続詞を的確に使用し、トピックをふまえた一貫性のある紹介文を書くことができる。 〈B基準に達していない児童（生徒）への手立て〉 ○ヒントカードを提示し、紹介文作成のヒントとさせる。	ワークシート
整理 15分	5 改善した紹介文を発表する。 (1) グループ内で発表を行い、わかりやすく、学校のことを書いている紹介文をそれぞれ一つ選ぶ。 【グループ】 (2) グループ代表の発表を行い、よい表現やポイントを共有する。 【全体】 (3) 発表したことに対してコメントやインタラクションを行う。 6 本時のまとめを行い、再度文章作成のポイントを押しさえ、次時につなげる。	○発表するときのポイント（Gesture, Eye contact, Big voice, Reaction）を押さえ、発表につなげる。 【視点2】 学び合ったことを踏まえて、改善した紹介文を発表させる。 【視点3】 発表の後、内容を確認するために、原稿をカメラで映し出し、表現活動のポイントを効果的に紹介する。 ○学習したことのポイントを押しさえ、共有化を図る。	実物投影機

